

◆茅ヶ崎同盟教会たより 2023年5月

自分たちの心を、両手とともに、
天におられる神に向けて上げよう。

(旧約聖書 哀歌 3章 41節)

心が弱ってしまうことがあります。疲れている時、忙しい時、緊張状態が続いている時、思い描いた通りに事が進まない時、人を傷つけてしまった時、理解してもらえない時、裏切られた時、行き詰まってしまった時など。私たちの日常は、心を消耗する事柄にあふれています。

以前、「何を見張るよりも、あなたの心を見守れ」

(箴言 4:23) という聖書のことばを紹介しました。ゆっくりと自分の心を見つめてみると、今、どんな状態なのか気づくはずです。どうして弱っているのか。何が心を苦しめているのか。何に傷ついているのか。

でも丁寧に「心を見守る」ことは、それで終わりません。その心を天におられる神に知っていただくのです。「自分たちの心を、両手とともに、天におられる神に向けて上げよう」と聖書は呼びかけています。

八方ふさがりのようでも、天は開いています。両手を天に上げて祈ることができるのです。手を組んでうつむき加減に祈るだけが祈りの姿勢ではありません。両手を上げて、天に向かって心を開いてみましょう。ことばにならない祈りでも、神は聞いておられ、私たちの心に、必要な気づきを与えてくださるはずです。

だれかを責める心が赦す心に変えられるでしょう。自分の過ちを示されて謝ることができるようにもなります。祈りから私たちの生き方が変えられていくのです。「主は、たとえ悲しみを与えたとしても、その豊かな恵みによって、人をあわれまれる。」(哀歌 3:32)

祝福がありますように！

牧師 山村諭